und der Schweiz, Heft 2, Jena. Huber-Pestalozzi, G. 1955. Das Phytoplancton des Susswassers, 4 Teil. Euglenophyceen. Stuttgart. Popova, T. 1955 Euglenophyta in the Key of freshwater Algae of USSR, vol. **7**, Mosckva. Skvortzov, B.V. 1924. Farblose Euglenaceen aus Nord-Mandschrei (China) in Archiv für Protist. **48**: 180-186. ——— 1957. New and rare Flagellatae from Manchuria, Eastern Asia. Philip. Journ. of Ac. Vol. **86**: (No. 2), Manila.

* * * *

華北ハルピンおよび南米ブラジル，サンパウロで採集したミドリムシ植物 Peranemaceae の *Urceolus* 属について研究した。その結果ハルピンから 38 種，サンパウロから 19 種を見出し，そのうち 23 は新種であった。属の記載，種への検索表と各種の記載，図をつけてある。

○高等植物分布資料 (48) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (48)

○モミラン *Gastrochilus toramanum* Schltr. 樹幹稀に岩上に着生する，常緑多年生の小さい植物である。葉は小形で 2 列につき，楕円形または卵状楕円形。花は黄緑色で背面が紫色を帯びる。稀品で今日までに知られている産地は，静岡県富士山，長野県南部，岐阜県東部，三重県，和歌山県，兵庫県北部，広島県北部，高知県などに過ぎず，産量は至って少ない。関東地方ではいままで誰も採集していないようである。ところが八王子市の植物研究家畔上浦治郎氏が，同氏の知人が 1963 年 9 月 28 日東京都下奥多摩日原の鐘乳洞附近で採集してきた小形のランを私に示された。色々検討してみた結果モミランであろうと思い，その旨返答しておいた。先日前川文夫博士が来られたので，鑑定して戴いた結果モミランであることが確認された。日原は今までのところモミランの分布の北限地であり，また東限地であると思う。 (林業試験場浅川分室 林 弥栄)

□桑原義晴：**後志の植物** —その生態—，1966，後志の植物刊行会，700 円. 倶知安高等学校での長年にわたる研究成果のうち，特に北海道後志地方に関係の深い論文をまとめて一冊の本とされたものである。のせられた論文の一部は「生態学会誌」，「植物研究雑誌」，「北陸の植物」等に既に発表されたもので，"できるだけ多くの読者に読んでいただくために，平易に書き改めた" という著者の気持をうかがう事が出来る。北海道南部の植物を扱った単行本は非常にすくないので，同地方のフローラを知るのに大変便利である。発行所は北海道倶知安町北 1 東 3。 (豊国秀夫)